

2019 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

教育理念・目標	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
----------------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。 2、男女共学化 4 年目に際し、新たに表出する課題に対して対応する。 3、新図書館やICTを活用した教育の研究と実践を深める。 4、中高 6 ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。 5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する。
-------------	--

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2020 年 7 月 18 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	<p>法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、例年通り、中学1年生「校外授業」、高校1年生「新入生合宿」など行事や、中学校 1 年社会科の授業を通じて、本校の建学の理念「自由」と「進歩」について大学史や二中高史の独自プリントを使用して学習を行った。大学との連携のなかで、高校 1 年生時に開催される「ウエルカム・フェスタ」を1つの動機付けとし、進路意識開拓にもつなげた。高校 2 年時、3 年次に行われる法政大学学部学科説明会等においても、本校、そして大学の建学の精神についても触れながら実施した。</p>				各学年において、将来における必要な事柄を生徒に意識づける取り組みが行われている。
2	組織運営	<p>本校における組織運営の原則は、全教員による組織的討議にもとづいて教育方針を定め、これに沿いながら実践を進めるとともに、中間点検を挟み、年度末に1年間の教育活動を総括し、導き出された教訓を次年度に向けて方針化していくことにある。このサイクルは、本校の在り方を支える根幹であることから、今後も引き続き堅持していく。</p> <p>本年度においても上記原則にもとづき、教員会議を通じて方針を定め、中間点検で実践の到達状況を確認し、年度末に総括を行い次年度方針の確認・共有と実践のための意思統一を図ることができた。</p>				教育方針の実践に対する点検、総括がきちんと行われ、組織運営は非常に健全である。
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科教育においては、学校改革の一環として、「教科教育における 6 力年体系化」の中長期計画に基づき、カリキュラム改革をおこなった。学習内容の精選・体系化とともに、学習方法についても活動型の学習を大きく位置づけ、他者と協働しながら思考力・表現力を培う実践を進めた。学力向上に資するカリキュラムの再構築と実践を展開し、学力の到達状況に応じて特別指導や課題設定などの学習支援を継続した。こうした取り組みを通して、法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率について前年度の水準を維持することができた。来年度も、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の一層の充実に向け、ICT 機器の活用や学習情報センターとしての図書館を活用した教科活動を推進する。</p> <p>生活指導においては、中高ともに共学化が完成して、「新しい学校」としての生徒実態の把握に努めた。「中・高 6 力年の生活指導の体系化」をはじめ、生徒の学校生活の様々なルールを明確化して、生徒への周知徹底に努めた。「クラブ再構築」をもとにした、女子生徒を含めた共学化での4年目のクラブ活動においては、改善課題の把握と環境整備に重点を置いた。新入生(中 1、高 1)については例年と同様に多様化する生徒実態に対し、校外授業(中 1)や新入生合宿(高 1)を通じて、個別的な生徒実態把握に努め、他学年については前年度の学年との連携の中で個別的把握を行い、以降の指導の手立てに反映させた。</p>				生徒自身が考え、表現する力を培う学習が行われており、長期的な教育計画がなされている。教育のIT化も進んでいる。歴史ある本学の伝統を踏まえつつ、共学化の体制が確立しつつある。

4	<p align="center">安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</p>	<p>例年通り、定期健康診断・体力測定(スポーツテスト)を実施した。その結果と分析を返すことで生徒は自分の体力や健康状態を知ることとなり、さらには健康への認識を深めるようになった。AEDは学校内に13カ所設置しており、どこに設置されているかを理解させる取り組みを行っている。夏休み前には教職員対象及び生徒対象(各部の代表者)の安全講習会を実施し、救命救急について学んでいる。さらに授業でも心肺蘇生法や救急法について学んでいる。また近年増加しつつある多方面の問題に対処しなければならない生徒、保護者のためにカウンセリングルームを充実させ、必要な連携が取れる体制を作っている。障害者差別解消法の施行に伴い、今年度も「合理的配慮」の理解を進め、その対応を進めた。</p> <p>避難訓練については、「火災時の避難経路の確認」「大規模地震発生時の防災用品の配布確認」「大規模地震発生時の対応」に関わって合計3回実施した。避難時の注意事項の確認・徹底も行い、整然と実施することができた。次年度は教科の授業中や休み時間の訓練も視野に置いて、より実践的な訓練に取り組んでいきたい。また、継続して大規模地震発生時の対応について検討を深めたい。</p>	<p>人命救助や災害時の教育が十分になされている。生徒の意識を高めていく上でより実践的訓練が求められる。</p>
5	<p align="center">連携 (保護者、卒業生、地域等)</p>	<p>保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。中学高校と別組織だった育友会が統一されてから3年目となる2018年度においても、意見交流を大切にしながら、一つ一つ確認をするなかで連携を図ることを重視した。また、「育友会集中ミーティング」において、昨年度同様に学校と保護者の意見交換が成された。定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。</p> <p>卒業生との連携では、同窓会を中心に行った。また昨年度まで開催してきた「監督コーチ懇談会」から、より内容を深めるために「クラブ指導者研修会」と改め、開催した。多くの顧問・コーチが参加し、クラブ指導の方針について共有し、また「これからの指導者のあるべき姿」について学びを持つことができた。次年度も生徒の健康・安全・成長をより深めていくことができる研修会の開催をする計画する。進路指導においては、OBを招き、進路講演会を実施した。</p> <p>地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応につとめた。さらに学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、吹奏楽部による地域のお祭りへの参加、教員による年5回の登下校路上指導を行った。また二中文化祭・二高祭に於いては、地域の商店街と話し合いを持ち、7店舗に出店していただいた。年度末(3月)には、吹奏楽部による演奏会を開催し、地域の方々にも開催についての案内をした。</p>	<p>育友会中心として保護者との連携はとれているが、自省を込めて保護者にはもっと育友会の活動に参加してほしい。</p> <p>地域とは関係性は、大変評価できる。保護者も含めた交流を模索する。</p>
6	<p align="center">大学との連携</p>	<p>三付属校の高校1年生全員を対象に、法政大学のアイデンティティや教育目標を知り、大学での学びを意識する「ウエルカム・フェスタ」を実施した(市ヶ谷キャンパス)。今年度で7回目となる。当日前半は、法政大学の歴史や法政大学憲章、ダイバーシティ宣言を知る「ようこそ法政へ!」と、大学と高校の学びをつなぐ「学問のチカラ」についての講演を行った。後半は、学部ごとの教室に分かれ、付属校出身大学生による「学びのモデル」の紹介と質疑、また、保護者向けキャンパスツアーを行った。高校から大学への学びを通して将来について考える機会となった。また、高校1年生は3学期に社会人進路講演会を実施し、高校での生活や将来の職業について考える機会を持った。</p> <p>高校2年生は、3キャンパスの大学職員によるキャンパス・学部説明会を実施したほか、オープンキャンパスへの参加を位置づけ、大学進学のための具体的なイメージを持つ機会を作った。</p> <p>高校3年生は、各学部の大学教員を招いた学部別の進路講演会を実施した。また、学部内定後の「3年3学期プログラム」の取り組みでは、テーマごとに研究を行い、プレゼンテーションを実施し、大学教員から講評をいただいている。また、大学入学前課題の設定や研究テーマについての助言指導、入学前ガイダンスなどで大学と連携している。</p> <p>高校全体に関わって、夏休み期間に開催された「One-Day Science College in Koganei Campus」は、今年度で5回目となった(小金井キャンパス)。理工学部、情報科学部、生命科学部が高校生に向けて最先端の研究・技術を体験してもらう企画として、理系分野に興味関心の高い生徒24名が参加した。また、夏休み期間に行われたイングリッシュ・キャンプ(多摩キャンパス)には、16名が参加し、英語を通じた合宿を体験することができた。さらに、今年度初めての企画として、多摩キャンパス体験学習プログラムを実施した。経済学部、社会学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部の模擬授業などを行い、58名の生徒が参加した。そのほか、今年度も総長杯英語プレゼンテーション大会を実施した。</p> <p>いずれも充実した取り組みとなった。今後も、大学との連携を深める取り組みを進めたい。</p>	<p>ウエルカム・フェスタ、キャンパスツアーなどは、大学の具体的なイメージを持つことができて大変有効である。</p> <p>付属校らしさを前面に出した取り組みも見られる。</p>

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2019年7月6日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎グラウンド・外構整備	<p>キャンパス全体の竣工から3年目を迎え、校舎ならびにグラウンド・外構の運用・活用について、前年度に引き続き現状の把握・検証・調整に努めた。施設・設備の点検についても必要に応じて実施し、法人内の関係組織・関連業者の協力・連携により、生徒・教職員の安全・安心な学校生活の保障を第一とし、対応することができた。</p>				最新設備、整った校舎、グラウンドがきちんと維持管理された。
2	入試広報	<p>2019年度は共学化第1期入学生が、中学生は高校へ、高校生は大学へ進学した年度となり、卒業生がどのように活躍をしているかを具体的に説明することができる一年であった。また中高ともに昨年度におこなった募集定員変更に対する入試結果を個別相談会や説明会の場で丁寧に説明することも必要であった。広報活動については、例年通り“この学校でどのように成長できるか”というストーリーイメージを明確に伝えることをコンセプトとし、学外での各種説明会・相談会にも積極的に参加した。学校説明会は各回にテーマを決めて、より来場者の共感を得る形式を模索した。在校生・保護者・卒業生にも協力をいただき、本校の教育の魅力をそれぞれの立場でアピールすることができた。文化祭でも育友会と連携し有為な広報活動を展開することができた。入試活動について振り返ると、志願者数は例年並みの人数であった。適正な選抜方法によって、適正な人数の入学者を確保することができた。今後も本校の教育の中身をより具体的にアピールしていくことが大切となる。継続的に検討を重ね、積極的に入試広報活動を展開する。</p>				本校の魅力を十分にアピールする入試広報活動が十分行われた。
3	新制服の制定	<p>2016年度に検討が始まった女子生徒のオプションサマースカートについて、2018年度より着用がスタートした。今後も引き続き、制服の適切な着用について、丁寧な指導を行ってきたい。</p>				
4	2019年度学校構想(国際交流の推進)	<p>本年度も国際交流を推進すべく、昨年度に引き続いて諸活動を展開した。姉妹校オレワ・カレッジとの交流における長期留学、およびカナダ語学研修は予定のプログラムを無事に終えることができた。学内での国際交流の基盤となる、生徒組織と連携した国際交流委員会の活動も、支援先となる国の特産物を活かした雑貨の製作・販売および募金活動など、新たな活動を展開した。また長期留学生を迎え、年間を通じて様々な交流活動を実施するとともに、スウェーデンのクララ高校からの生徒の短期受け入れを実施することができた。</p>				積極的な国際交流が広く行われた。